

今週の為替相場見通し (2017年4月10日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.14 ~ 111.59	111.05	108.00 ~ 112.00
ユーロ	(ドル)		1.0581 ~ 1.0689	1.0592	1.0400 ~ 1.0750
(1ユーロ=)	(円)		117.32 ~ 119.05	117.65	116.50 ~ 120.00
英ポンド	(ドル)		1.2365 ~ 1.2553	1.2374	1.2250 ~ 1.2450
(1英ポンド=)	(円)	*	137.01 ~ 139.91	137.48	135.50 ~ 138.50
豪ドル	(ドル)		0.7495 ~ 0.7640	0.7504	0.7200 ~ 0.7600
(1豪ドル=)	(円)	*	82.80 ~ 85.17	83.30	80.00 ~ 85.00

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 西谷 鷹

(1) 今週の予想レンジ: 108.00 ~ 112.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

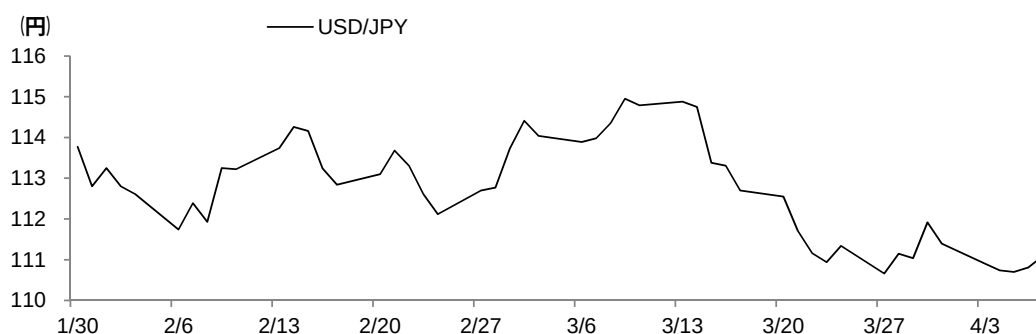
先週のドル円相場は揉み合う展開。週初3日、111円台前半でオープンしたドル円相場は、本邦実需によるドル買いや日経平均株価の上昇を背景に一時週高値となる111.59円をつけるも、その後は米金利が低下する動きにストップスを巻き込みながら、110円台後半まで下落。4日、前日に発生したロシアの地下鉄爆発事件を受けてリスク回避姿勢が強まる中、クロス円の下落にドル円も110円台前半まで連れ安となる。しかし、その後は米2月貿易収支の良好な結果を好感したドル買いに110円台後半まで反発した。5日は米3月ADP雇用統計が市場予想を大きく上回ると111円台前半まで上昇。しかし、米3月ISM非製造業景気指数の悪化を受けて米金利や米株が下落すると、ドル円は110円台半ばまで下落した。6日もこの流れを受けて110円台前半まで下落したが、米新規失業保険申請件数の予想比良好な結果などを受けて111円台前半まで反発した。7日は東京時間に米軍がシリアに向けてミサイルを発射したとの報道を背景にリスク回避の円買いが強まり、ドル円は一時週安値となる110.14円まで急落。その後、110.70円辺りで値を戻すも、発表された米3月雇用統計が市場予想比大幅に弱い結果となったことを受けて再度110円台前半まで下落。しかし、ダドリーNY連銀総裁が「FRBの金融政策はバランスシートの縮小よりも金利を優先する」と発言したことなどを受けて米金利が上昇すると、111円台まで反発して111円台前半で越週した。

今週のドル円相場は上値の重い展開を予想する。先週発表された米雇用統計はほぼ材料視されないだろう。天候要因などを反映して一時的に落ち込んだが、総合的には悪くないといった市場の評価であり、同指標が今後のFRBの利上げペースに影響を及ぼす可能性は極めて低いとみられる。今週は引き続きトランプ政権の動向に注目が集まると思われる。先週行われた米中首脳会談では主に北朝鮮問題が話し合われたと見られ、米中の通商政策に関して踏み込んだ議論はなかった模様。但し、米国サイドは100日以内に米中両国の貿易不均衡の原因分析、改善策を取りまとめるといった「100日計画」に合意したと報じている。18日(火)に始まる第1回目の日米経済対話で日本は同様の内容を求められる可能性が高い。加えて、15日(土)を目処に米為替報告書が発表される予定であることも踏まえると、ドル円の水準に何らかしらの注文を付けられることも十分想定され、積極的にドル円を買うといった動きは控えられるだろう。また先週、米国がシリア向けに突如軍事行動を起こしたに伴う、地政学リスクの高まりがドル円の上値を押さえるものと思われる。先週同様に110円の大口を意識しつつ、下方向の動きを警戒して臨みたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (4/3~4/7) の値動き:

安値 110.14 円 高値 111.59 円 終値 111.05 円



(資料) ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.0400 ~ 1.0750 116.50 ~ 120.00 円

(2) ポイント(先週の回顧と今週の見通し)

先週のユーロ相場は対ドルで揉み合い後、下落する展開。週初3日、対ドル1.06台後半、対円118円台後半でオープンしたユーロは、特段の材料がない中、1.06台前半まで弱含む場面が見られるも、米長期金利低下を受けたドル売りに対ドル1.06台後半まで上昇した。一方、日経平均株価の堅調な値動きなどを受けてドル/円が上昇すると、ユーロ/円は週高値の119.05円まで値を上げた。翌4日にかけても、対ドルでは1.06台前半まで値を下げたが、その後は1.06台後半の狭いレンジ内で推移した。週央5日は、米3月ADP雇用統計の良好な結果を受けたドル買いを背景に、ユーロは再び対ドル1.06台前半をつけるも、ライアン下院議長が医療保険制度改革法(通称オバマケア)の撤廃は予想よりも時間がかかると発言したことなどをを受けて一時対ドル週高値となる1.0689まで反発した。しかし翌6日には、ドラギECB総裁が拡大資産購入プログラム(APP)を含む現状の金融政策を当面は維持する意向を示したことを受けて、ユーロは対ドル1.06台前半まで急落。その後は買い戻しの動きが入るも材料難となる中で、ユーロは上値重く推移した。週末7日は、米軍がシリアに向けてミサイルを発射したとの報道を背景にリスク回避ムードの高まりから、ユーロ買いが強まり対ドル1.06台前半まで買い戻された。一方ドル/円が急落するとユーロ/円は週安値117.32円まで下落した。その後、NY時間に入り、米3月雇用統計は冴えない内容となったが、ダドリーNY連銀総裁からのタカ派的な発言を受けてドル買い優勢となるとユーロは対ドル週安値1.0581まで値を下げた。そのまま安値圏で推移し結局対ドル1.05台後半、対円117円台後半で越週している。

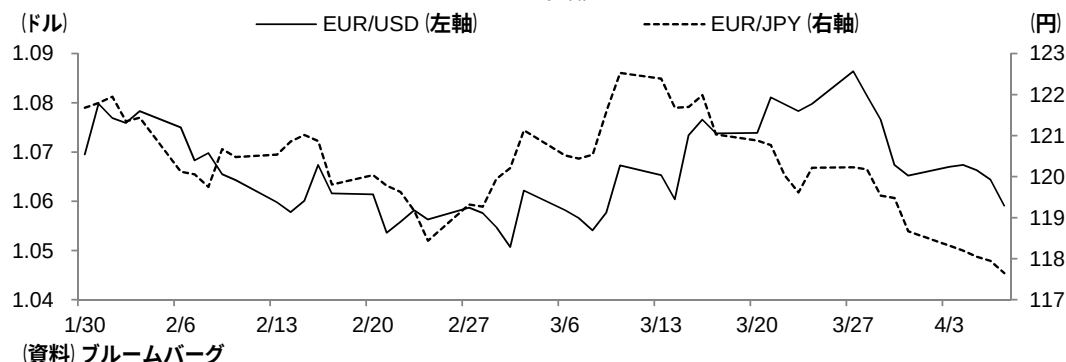
今週のユーロ相場は、対ドルで上値の重い展開を予想する。先週6日のフランクフルトでの講演においてドラギ総裁はAPPやマイナス金利をはじめとする現行の緩和策について現状維持を強調した。足許ユーロ圏では2011年以来高水準となった3月製造業PMIや8年ぶりの水準まで低下した2月失業率など、堅調な経済指標が確認されている。ワイトマン独連銀総裁は金融緩和解除に関する時期や方法を巡って協議を始めるよう圧力を強めていた。しかし先週のドラギ総裁をはじめECB幹部からのコメントでは、景気やインフレに対する現行の金融緩和策の効果を確信するには時期尚早としており、当面は現状の緩和策が継続されることが見込まれる。足許独債をはじめユーロ圏国債の利回りは総じて横ばいから低下傾向にあり、今週もユーロの上値を押さえるであろう。加えて引き締め方向にある米金融政策を背景にドル買い優勢の展開が予想されユーロは売られやすい地合いになると見込む。また今月23日にはフランス大統領選挙(第1回投票)を控えており、政治イベントリスクなどを勘案すれば積極的にユーロのポジションは積上げにくい。そのため、ユーロは下値を探る展開を基本シナリオと考える。ただし、シリア情勢など、地政学リスクが意識され緊張が高まる場面では、ユーロが買い戻され高騰することが予想され留意したい。今週発表予定の経済指標としては11日(火)にユーロ圏2月鉱工業生産、独4月ZEW景況指数がある。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/3~4/7)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0581 高値 1.0689 終値 1.0592

(対円) 安値 117.32 高値 119.05 終値 117.65



3. 英ポンド

欧州資金部 寛 純希

(1) 今週の予想レンジ: 1.2250 ~ 1.2450 135.50 ~ 138.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は、対主要通貨でポンドが下落。先月末のEUへの離脱を正式に通告して以降、対円で一時140円台を回復していたが、イベリア半島南端の英領ジブラルタルを巡る交渉が難航するとの観測がにわかに高まったことなどもあり週前半は138円を割れる軟調な展開。5日に発表された英国サービス業購買部指数が市場予想53.4に対し55.0、同時に発表された労働生産性も堅調な結果となると一時は139円を回復するも長くは続かず、7日未明には米軍がシリア空軍基地へミサイル攻撃を行ったことを受け、急速に地政学リスクが高まり、円に上昇圧力がかかると再び138円を割り込んだ。同日発表の鉱工業生産指数も前年比で+2.8% (市場予想:+3.7%)、前月比で-0.7% (市場予想:+0.2%) と弱い結果になり、ポンド売りの要因となった。対ドルでは週前半に1.250を割り込むと7日の英国鉱工業生産指数の発表後に1.245割れ、その後米国雇用統計の発表直後には一時1.245近辺まで回復したものの、失業率の低下などが意識されじわりとポンド安が進行し1.240を割り込んだ。ポンドは週を通じ上値が重い値動きとなった。

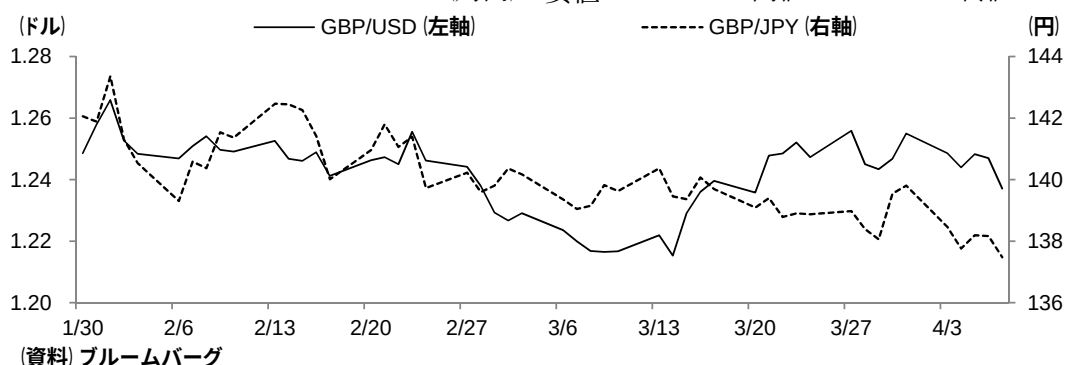
今週の英ポンド相場は、引き続き上値の重い展開を予想する。主要通貨は①金融政策、すなわち米国を中心とする利上げ動向と資産購入の縮小を巡る政策先行きの見通し、および②政治動向、すなわち米国はトランプ大統領の政策運営、欧州はフランス大統領選挙を中心とする選挙情勢、英国はEU離脱交渉、この2つが主要テーマとみられていた。ここに来て米軍のシリアへのミサイル攻撃で突如として地政学リスクが高まり、先行き不透明感が一段と増す可能性が高まった。それを示す様に一部市場のボラティリティは上昇してきている。トランプ米大統領は、オバマ前政権とは異なりロシアとの対立構図を緩和させる方向性を示してきており、オバマケアを巡る法案修正の失敗以降早々と別の方策を打ち出してきたとは言え今回の攻撃はサプライズなものであった。トランプ大統領は、「攻撃は限定的であり一度限り」であると表明しているものの、ロシアは既にメドベージェフ首相が「軍事的衝突まであと一步」と述べるなど緊張が高まっており、対立が長期化するリスクは相応にある中、相対的に円が買われやすい地合いとなり易い。英国では、11日(火)に3月消費者物価指数(CPI)、12日(水)に2月失業率(ILO基準)の発表が予定され、その後14日(金)、17日(月)とイースターに関連する祝日となる。英国投資家にとってはこうした状況が続くなか、リスクの取りづらい時期にある。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/3~4/7)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2365 高値 1.2553 終値 1.2374

(対円) 安値 137.01 高値 139.91 終値 137.48



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 下山 泰典

(1) 今週の予想レンジ: 0.7200 ~ 0.7600 80.00 ~ 85.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は、対ドル・対円ともに軟調な展開。3日、対ドルでは0.76台半ばで、対円では84円台後半でオープン。この日に発表された豪2月小売上高が市場予想を大きく下回ったため豪ドルは下落、対ドルでは一時0.75台まで値を下げた。4日に開催された豪州準備銀行 (RBA) 理事会では、政策金利が据え置かれるも、同国の雇用情勢や住宅環境などに懸念が示されたことで豪ドル売りの流れとなり0.75台半ばまで下落した。5日は、米国の良好な経済指標や公表された3月FOMC議事要旨 (3月14~15日)でFRBのバランスシート縮小が議論されたことが明らかとなったものの、豪ドル市場への影響は限定的。6日も基本的にはレンジ内での推移に留まった。翌7日だが、東京時間午前に米軍がシリアに対してミサイル攻撃を実施したとのニュースにリスクセンチメントが急速に悪化し、豪ドルは下落し対ドルでは0.75台前半、対円では週安値となる82.80円をつけた。その後発表された米3月雇用統計は市場予想比弱い結果となり、対ドルでは0.75台半ばまで上昇したがその流れは続かず。また、ダドリーNY連銀総裁が、FRBのバランスシート縮小に伴う利上げ休止期間は極めて短いものになることを強調したことを受け、米長期債利回りが上昇しドルが買われる展開に週安値となる0.7495まで下落し、0.7504で越週した。なお、対円では83円台前半で越週した。

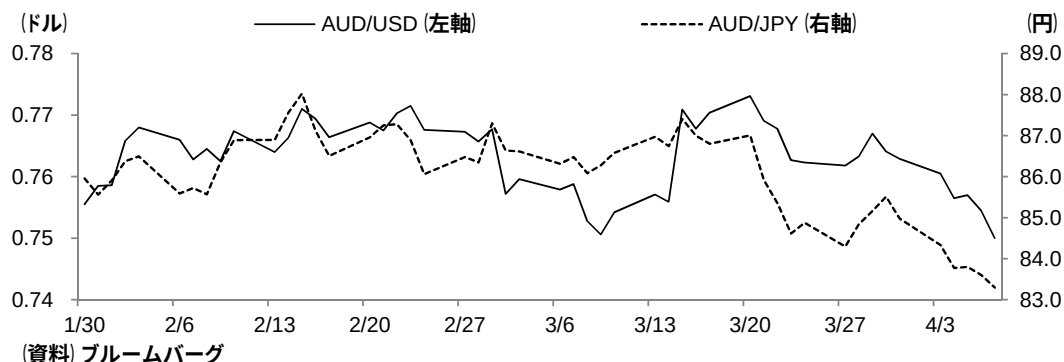
今週の豪ドル相場は、やや軟調な展開を予想する。ポイントは、豪ドル自体の弱さに加えて、ドルの強さだと考えている。まずは豪ドルだが、先週のRBA理事会では同国の雇用情勢の弱さや過熱する住宅市場への警戒感が示された。住宅市場は住宅ローン規制などを強化しているものの効果は限定的となっているため政策金利の引き下げは困難そうではあるが、一方の雇用市場の状況を見れば引き上げもまた難しいだろう。来週は13日 (木) に豪3月雇用統計が発表となるためその結果には注目だが、これまでの推移を考えれば弱い結果となる可能性は否定できず、また軟調な鉄鉱石価格も相俟って豪ドル自体にやや下押し圧力がかかりそう。他方、週末の米3月雇用統計で非農業部門雇用者数変化はやや弱い結果にはなったが、失業率など他の労働関連指標の結果は良好であり、また最近発表された他の経済指標を勘案しても米国のファンダメンタルズは堅調と言えそう。そのため、ドル買い優勢の展開になると思われる。欧米の政局不安や先週末の米軍によるシリアへのミサイル攻撃など地政学的リスクの高まりなどは懸念されるが、リスクセンチメントが悪化した際には豪ドル売りが強まる傾向も見られるため、やはり豪ドルには下押し圧力がかかりやすいだろう。かかる状況下、今週の豪ドル相場は基本的にやや軟調な値動きを予想している。本稿執筆時点では年初来安値である0.7491を標榜できる水準にあるためテクニカル的な要因などで反発することも考えられるが、逆に下抜けた場合には大きく下落する展開も考えられるため、注意が必要となる。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (4/3~4/7) の値動き:

(対ドル) 安値 0.7495 高値 0.7640 終値 0.7504

(対円) 安値 82.80 高値 85.17 終値 83.30



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。